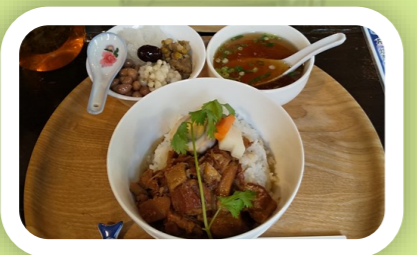
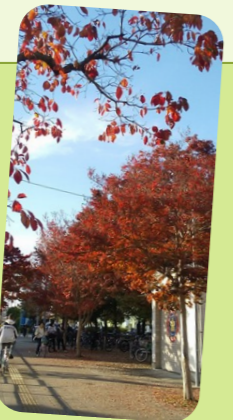


おさんぽ司書の部屋

長引いていた暑さもようやくおさまり、ひんやりと心地の良い風が吹きはじめました。銀杏並木も色付き始め、お散歩にはうってつけの季節になりました。気になっていた場所に足を運んでもよし、おいしいものを食べに行ってもよし、風の吹くままぶらりとあちこち歩くのもよし。思いがけない出会いには、思わず胸をときめかしてしまいます。

楽しみ方はいろいろで、ブラブラ歩くのも楽しいですが、ちいさなギャラリーや心惹かれる書店など、どこか1ヶ所立ち寄りところを決めておくと、より楽しいお散歩になります。ごはんを食べる時も、通りすがりのお店にふらっと入ってみるのも一興ですが、周辺で評判のお店をリサーチしておくのもはずれが少なくお勧めです。巣鴨図書館にもうってつけの本がたくさんありますので、ぜひお役立てくださいませ。素敵なお散歩になりますように。(H)



◎本の紹介

- 『東京商店街さんぽ』 見知らんジャパソ研究社/制作
- 『乙女の東京案内』 甲斐みのり/著 左右社
- 『歩いて再発見!東京8000歩さんぽ』 JTBパブリッシング
- 『さんぽ、しあわせ。-東京ゆるゆる街ある記』 石黒由紀子/著 毎日コミュニケーションズ
- 『段差ゼロの東京歴史さんぽ - のんびりぶらり。やすみながらの3時間 -』 黒田涼/著 オレンジページ

～大正大学～



大正大学は、大正15（1926）年に開学し、来年創立100周年を迎えます。開学当初は文学部だけの単科大学でしたが、現在は6学部11学科になりました。また、創立100周年の節目は「第二の開学」と位置づけられ、初の理系学部「情報科学部」も開設され、7学部13学科と、更に多様な学び舎となります。

大正大学で行われる教育を知ってみると、「不易流行」という印象を受けます。その建学の理念は大乗仏教精神である「智慧と慈悲の実践」です。その建学の理念にもとづいて教育ビジョン「4つの人（慈悲・自灯明・中道・共生）」を立てており、建学の理念と教育ビジョンを中心に捉えながら、「10の力」が設定されています。

「物事の本質も見極める力」や「自分事として問いを立てる力」、「根拠にもとづいて思考する力」、「多様性を尊重する力」など、変化の激しい現代社会を生きていくために重要な10の項目が設定されており、有益な学びが提供されているのではないのでしょうか。

そして、皆さんは大正大学ゆかりの建造物が、登録有形文化財として愛知県にあることをご存じでしょうか。

昭和43年に解体された、旧本館正面に設置された車寄せが、現在は博物館明治村（愛知県犬山市字内山1番地）に移築されています。高さが6.9mあることから、旧本館自体もかなり立派な建物であったと想像できます。

大正大学旧本館と車寄せの当時の様子は、巣鴨図書館所蔵の『大正大学』（自校史ブックス編集グループ編著、大正大学監修、日経B Pコンサルティング※初版）という本の口絵に、小さなものではありますが写真が掲載されています。また、車寄せの現在の様子は、博物館明治村のホームページなどで見ることができます。

こんなところにも、大正大学の長い歴史が感じられますね。興味がある方はお調べになってみてください。(O)



《編集後記》

ご近所の施設探訪のコーナーでは「大正大学」を特集します。ここ数年、大正大学×豊島区立図書館としてコラボイベントを開催しています。今年度も、11月8日（土）に「にぎやかな図書館祭」を予定しています。詳しくは館内掲示のポスターをご覧ください。地域の中で本を通じた輪が広がっていったらいいですね！（Mi）

すがもらいぶらり

2025年11月1日発行（年6回1・3・5・7・9・11月の1日発行）

長い夏が終わり、秋となりました。秋と言えば、スポーツの秋！まもなくデフリンピックが開幕するので、テレビの前で、もしくは競技場で応援するのも楽しみです。

今年は、大阪・関西万博、世界陸上、デフリンピックと日本国外から多くの方が来日されるイベントが多かったと思います。

自らが外国に出ていなくても、こうした機会をきっかけに他国のことを知ったり、触れ合ったりすることができます。

未来を担う子供たちも様々なことを感じて考えるきっかけになると良いなと願っています。（館長）



すがもがーでんニュース

すっかり秋本番。図書館の前庭、すがもがーでんでは綿花の実が次々とはじけています。すがもがーでんの綿は白だけではないんです。

めずらしい緑色、茶色もあるのでぜひ観察してみてください。花の色もそれぞれ違うんですよ。



巣鴨図書館恒例の「俳句ポスト」

いよいよ始まります！
あなたの今年の一句、ぜひご応募ください。
思い出を俳句にしてみませんか？
※詳しくはチラシをご覧ください。
次号のすがもらいぶらりに掲載させていただきます。

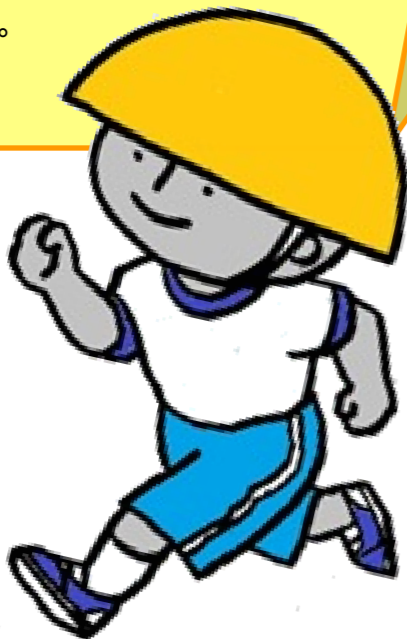


図書館で知る 【デフリンピック】

第4回目のテーマは、11月15日（土）～26日（水）開催、東京2025デフリンピックにちなんで「デフリンピック」です。

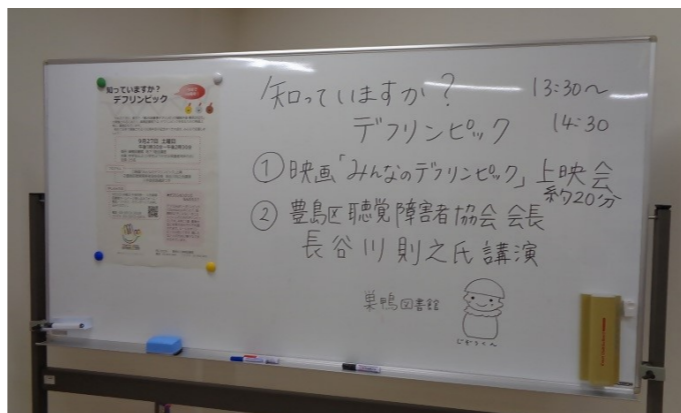
デフリンピックとは、耳が聞こえない、または聞こえにくい選手のためのスポーツ大会で、夏季の大会と冬季の大会が2年ごと交互に開催され、それぞれ4年に一度開催されています。第一回の夏季大会は1924年にフランスのパリで、冬季大会は1949年にオーストリアのゼーフェルトで開催されました。デフリンピックという名称はろう者を表す英語のデフ(Deaf)とオリンピック(Olympics)を組み合わせた造語で、ろう者のオリンピックを表しています。

日本がこの大会に初めて参加したのは1965年、アメリカのワシントンで開催された第10回夏季大会でした。水泳や陸上、卓球などの選手7名を派遣し、卓球女子シングルスで鈴木リヨ子選手が銀メダル、男子マラソン25kmで高山道雄選手が銅メダルを獲得しました。そして2年後の1967年にはドイツのベルヒテスガーデンで開催された第6回冬季大会にも選手2名が参加しました。残念ながら入賞することはできませんでしたが、この大会への参加を通じて、夏季、冬季両方の大会への参加という大きな一歩を達成しました。



以降も日本選手団はデフリンピックで大活躍しました。1973年にスウェーデンのマルメで開催された夏季大会で卓球の幾島政幸選手が初の金メダルを獲得し、その後もメダル数を増やしていきました。そして前回大会である2022年、ブラジルのカシア・ド・スル大会において、金メダル12個、銀メダル8個、銅メダル10個という過去最高のメダル獲得数を達成しました。

冬季大会においても、2003年に開催されたスウェーデンのソツバル大会のスノーボード大回転競技の男子の部と女子の部の両方で、それぞれ原田上選手、加藤八重子選手が冬季初の金メダルを獲得しました。その後2007年のアメリカのソルトレークシティ大会、2015年のロシアのハンティ・マンシースク大会では冬季最大の金メダル3個を獲得、昨年行われたトルコのエルズルム大会では金メダルの獲得こそできませんでしたが、銀メダル4個、銅メダル3個と過去最大のメダル数を獲得しています。



そして今年2025年の11月15日から26日まで、日本では初の開催となる第25回デフリンピック夏季大会が開催されます。これは1924年にパリで第1回デフリンピックが開催されてから、100周年の記念となる大会で、世界70～80か国・地域から約6000人が参加する過去最大の大会でもあります。

巣鴨図書館でもこの記念すべき大会を盛り上げるため、デフリンピックを知るための映画上映と、講演会を行いました。イベントは大盛況のうちに終わりましたが、その際皆様から頂いた応援メッセージを地下一階に掲示しています。

また、引き続き特集展示として関連資料や解説、ポスターの展示なども行っておりますので、是非ご活用頂き、一緒に東京デフリンピックを盛り上げましょう！(D)

